

令和4年度 附属研究所研究奨励交付金事業成果報告会

炭鉱閉山による児童の保護から引揚孤児問題へ

—福岡県を中心に—

福岡県立大学COC奨励研究（1年目）

2023年3月7日（火）

研究代表 鬼塚 香

本共同研究のメンバー

鬼塚香 福岡県立大学人間社会学部准教授（研究代表）

佐野麻由子 同人間社会学部教授

杉野 寿子 同人間社会学部教授

陸 麗君 同人間社会学部准教授

本報告の展開

1. 本共同研究の背景と目的
2. 2022年度（1年目）の活動経過
3. 調査結果
 - （1）和白青松園と百道松風園と聖福寮の関係
 - （2）1946年6月頃から引揚孤児救済が始まる理由
 - （3）引揚孤児救済のための一時保護施設としての大村子供の家
4. 今後の課題

1. 本共同研究の背景と目的①

- ・戦後史としての『福岡県』の特徴

引揚孤児の対応

博多港 = 日本最大の引揚港
かつ引揚孤児の引揚港



全国的レベルでの
引揚孤児の保護と
引き取り人探しを行う

引揚者の雇用

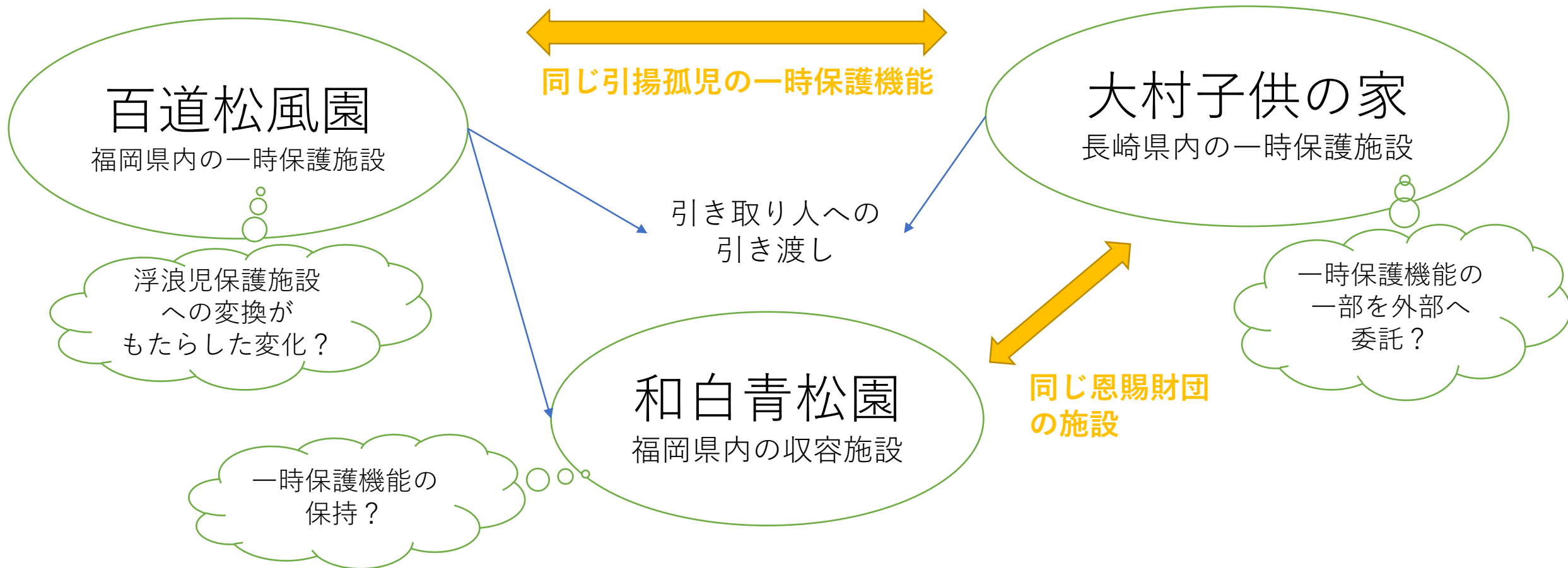
筑豊の石炭産業
= 戦後の経済復興を支える



引揚者はじめ失業者に対して
全国的レベルで雇用の場を
提供する

1. 本共同研究の背景と目的②

- ・ 下記 3 施設における引揚孤児救済保護実態の解明



2. 2022年度（1年目）の活動①

1. 百道松風園に関する調査（2022年8月～）

- ・ 福岡県共同公文書館の所蔵資料（17件）の確認
- ・ 同所蔵資料（13件）の閲覧予約
- ・ 福岡市ふくふくプラザにて資料の所在と管理状態の確認
- ・ 「引揚げ港・博多を考える集い」実質的な事務局との面会

2. 2022年度（1年目）の活動②

2. 和白青松園に関する調査（2022年12月～）

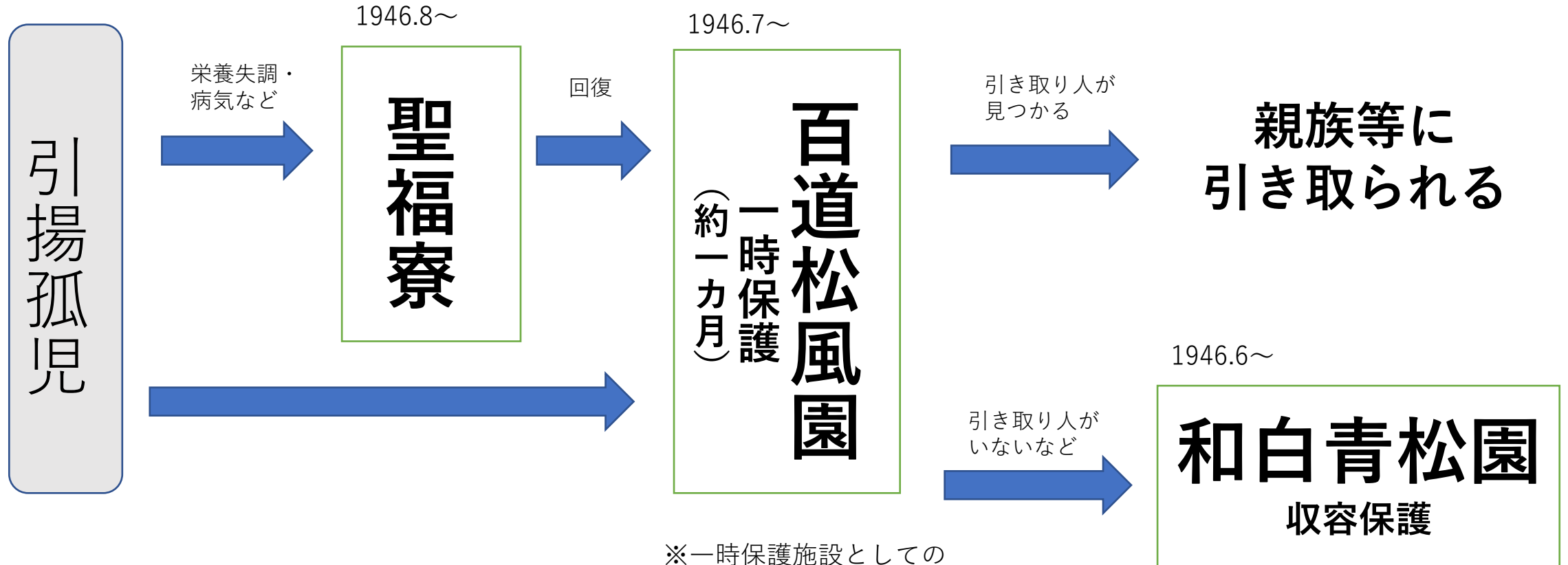
- ・ 和白青松園の所蔵資料（1件）の確認

3. 大村子供の家に関する調査（2022年12月～）

- ・ 大村子供の家在所蔵資料（8件）の確認

3. 調査結果①

和白青松園と百道松風園と聖福寮の関係



※一時保護施設としての機能は～1946.11

3. 調査結果②

1946年6月から引揚孤児救済が始まる理由

- 朝鮮半島南部からの引揚は1945年が多く、比較的順調。

『博多港引揚援護局史』

- 満州と朝鮮半島北部からの引揚は1946年以降で、困難を極める。

1945年6月以降、壮年男子はソ連国境警備へ配置

1946年4月 ソ連軍撤退により邦人引揚の見通し『九州アーカイブA』

1946年5月 ロコ島港から雲仙丸が上陸

大体に於て女子供が多く、青壮年の男子は少い。留用者として現地が残っているものが多いためである。
(中略) 之等引揚者は、全く着のみ着のまま、荷物もせいぜい一人一個位の程度で、所持金も一人平均7百円を出でず、絶えざる圧迫と苦闘を物語っていた (『九州アーカイブB 博多港引揚を考える』 p21)

3. 調査結果③

引揚孤児の一時保護施設としての大村子供の家

- ・大村子供の家を運営する同胞援護会長崎支部は1946年4月に発足。9月に大村支部所に「大村子供の家」を開設。
- ・そして、大村子供の家は「同胞援護会長崎支部大村事務所」名で、各府県の知事宛てに「引揚児引取り方」の文書発送。

→民間施設ではあったが、大村事務所として

厚生省佐世保引揚援護局の傘下で引揚孤児の一時保護機能を担った？

4. 今後の計画

1. 和白青松園・大村子供の家が所蔵する一次資料の扱いに関する協議
2. 福岡県・福岡市が所蔵する資料の閲覧に向けた協議
3. 関係団体への訪問調査
(東京婦人連盟および舞鶴港からの一時保護施設)
4. 上記1～3を踏まえ、資料の内容分析、解説執筆
→2024年6月 引揚孤児の関係資料集成刊行を目指す。

ご清聴ありがとうございました。